令和２年度

八万南小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導方法の工夫

～各教科における主体的・対話的な学びの中で
「できること」「わかること」が実感できる 45 分の組立て～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 日浦　孝則	委員　【校長】①伊藤浩二【教頭】②伊達智登世 ③柳生敦【教務】④澤口智子　【研修】⑤秋田泰宏 【各学年等】⑥福田直子⑦西原純和⑧平岡信章⑨東條輝江⑩岡本直美⑪青山典代⑫藤井由紀⑬木村孝之

校長

印

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

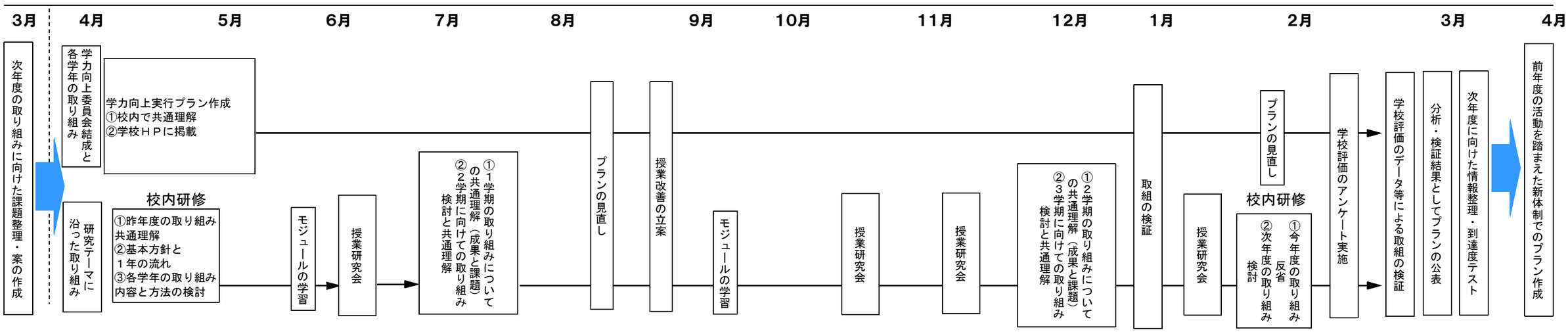
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○漢字や計算など基礎的・基本的な知識・技能について，習得率8割以上と思われる児童が7割以上いる。 ●基礎的・基本的な知識・技能の習得について，各学年，学級の中で格差が大きい。	①当該学年の漢字・計算を概ね習得し，活用できる。 ②2年生以上，九九の到達度テストにて１００％の習得の児童９割以上を目指す。	・本校の児童の実態から各学年におけるモジュール学習の内容を校内で検討し，昨年度から引き続いて継続して実施。 ・学年末と学年始めに九九の到達度テストの実施と漢字のまとめテストを行い，学年ごとの長所や課題を把握する。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○各学年発達段階において、簡単な質問においては自分の考えを相手に伝えることができる。 ●課題や目的に応じて自分の考えを筋道を立てて話すこと，書くことに課題がある。	①目的や課題に応じて，根拠や理由を明らかにしながら，自分の考えを表現することができる。（主に話すこと・書くこと）	・学習活動全般に児童の実態に即した「話す」「書く」活動を実践していく。 ・各学級の課題に応じた教材の研究。また研究授業の実施。 ・校内研修及びミニ研修あわせて年間５０回以上の実施を目標に取り組む。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○興味・関心のある授業に対して，意欲的に取り組むことができる児童が多数いる。 ●学習規律の習慣化と友達の意見をしっかり聞くことにおいて不十分なところがある。	①「チャイム着席」「学習の準備」ができている等、各学年の実態，学校全体で目標とする学習規律を守ることができる。 ②どの教科も一生懸命取り組むことができる。	・全教師が学習規律に対して同じ目標を持って指導にあたる。（めあて・まとめ提示） ・子どもが主体的に学習に取り組めた効果的な指導法をデータベース化するなどして，全教員が共有できるようにする。			

令和2年度　学力向上ロードマップ